

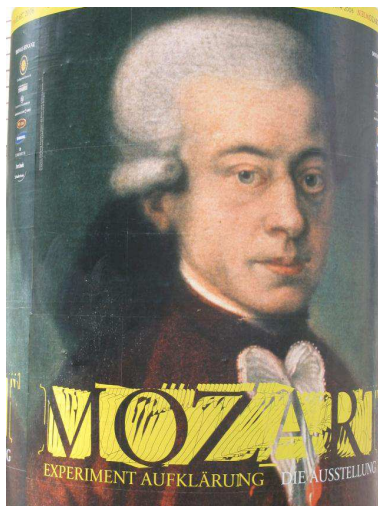
日本発ウィーン便り：チェックポイント

ウィーンでは、いつも写真を撮る定点観測地とは別に、チェックポイントがいくつかあります。そのうちの一つは、まあ言ってみればどうでも良いようなものなのですが…。あえて言えば、自分の目からの視点ではなく、他人の目線からの自分のチェックでしょうか？

ウィーンの旧市街の中心を歩いていると、オペラ座前、シュテファン大聖堂周辺、王宮周辺と、観光客の多い場所で見かけるこの人たち。



ちょっと見にくいのですが、ある冬の日の Hofburg（王宮）前。そこで昔の宮廷風の衣装に身を包み、ウィーン各地で開かれるコンサートとかディナーショーのチケットを売る人たちです。（例えば丸の中の2名。）観光客と思われる人々に「今日の夜のコンサートいかがですか〜。」と声をかけて回ります。つかみの「あいさつ」はもちろん数が国語を操ります。



以前は、この人達も昔小学校の音楽室に張ってあった「作曲家」（モーツァルトとかバッハとか。←の写真はモーツァルトです）の肖像画のような白いカツラをかぶって営業していましたが、いつの頃からかカツラ着用はなくなった様子。

で、何が私のチェックポイントなのか？というと、この人たちに声を掛けられるか・掛けられないか？なんです。

「なんのこっちゃさっぱり分からん！」だと思いますが、何が分かるかということ、自分が客観的に「観光客に見えるか、地元民に見えるか」＝「ウィーンの街に馴染んでいるかどうか」を判断する私のバロメーターの一つです。「で、オチは？」と言われてもオチがないのが関西人としてはとっとも申し訳ないのですが…。

確かに、久々にウィーンに行ったときなんかは、声を掛けられる率が

高いです。実際のところ、彼らが「何を基準に見分けているのか」というところに興味津々なので、そのうち、聞き取り調査してみたいと思っています。

でも残念なことに、この数年で「偽販売員」なるものも登場して偽造チケットを売り付けられたとか、ダブルブッキングとか、お金だけ払って予約が入ってないとか、トラブルも増えているようです。とうとう観光局が、こういったコンサートやディナーショーのチケットは路上の販売員から購入するのではなく、主催者から直接購入するか、観光局やホテルを通して予約することを勧める、旨の通達を出した位です。

そんなトラブルもあって、伝統のチケット売りの姿も今後見かけなくなるのかもしれませんがね。これも、ある意味ウィーンの風景の一部みたいなものだったので、ちょっと残念ではありますが。

で、実際のコンサートとかディナーショーは、まったく怪しいものではなく、大抵は元宮殿とか元貴族の邸宅(旧市街にはそんな場所がいくつもあります！王宮でも、シェーンブルン宮殿でも開催されています。)とかで開催されて、「音楽の都」ウィーンの名に恥じないクオリティのものとのことです。(私は参加したことないですが、実際に行って来られた方は満足されていました。)曲目も「ウィーンでクラシックを聴きたい！」の要望に応えるべく、皆が聞きたい・知っている曲が網羅されていて、歌あり、ダンス有で、普段クラシックを聴きなれない人でも楽しめるように工夫されています。(＋毎日のようにどこかで開催されているので、時間の融通が利かない旅行者にはぴったりかもしれません。)



ところで、ウィーンの街って、いつも感心するのですが、観光客を集める仕組みというか戦略というか発信の仕方が本当にお見事なんです。お城とか美術館とか、もともと街が持っている観光資源を活用するだけではなくて、季節のイベントやお祭りなど、一年中どの時期に訪れてもあらゆる層の人に楽しめるようになっているし、観光客の多いエリア(例えば旧市街など)では初めての人にも分かりやすいように、標識なんかも工夫されています。例えば、写真のように観光名所や歴史的建造物にはこんなふうに旗が立ててあります。旗の数は1本から4本で本数が多いほど重要度が高いという意味です。☺

今年もそろそろ Heurige (ホリリゲ：新酒) の時期です。☺そして来週末からは冬時間に戻ります。

もう朝晩は10°Cを下回って、結構寒くなってきている、とのことだったので、シェーンブルン宮殿の今の風景はこんな感じかな？

11月の中旬を過ぎると、商売上手なウィーンでは他の街に先駆けて Christkindlmarkt (クリスマス市) が始まり、日照時間が短くなって、全体的に暗い街が一気に華やかになりますよ。

なんだかとりとめない話になりましたが、何度行っても飽きることがない、素敵な街です。(でも定期的に「ウィーンに帰りたい」病に襲われる、という副作用はありますけどね。☺)

